

仙台市震災復興検討会議委員からの主な意見（論点整理）

I 新たな論点（ビジョンに記載のないもの）

（復興の目標・方向性）

- ・ 「震災前よりも良くする」「世界一住みたい都市」を実現することを復興の最終ゴールに
- ・ 市民、国民に分かりやすい復興計画のネーミング（例：世界一住みたい都市「ドリームシティ仙台」）
- ・ 仙台市の目指す都市づくりの方向性の明示（明確なキーワード、4つの切り口等）
- ・ 仙台市基本構想との関係で、何を変更しなければいけないか、どのような要素を付け加えるか
- ・ 基本計画（や都市計画マスタープラン）との整合性

（復興に向けた手法）

- ・ 復興を末永く祈念する文化施設の創設
- ・ 外部支援を受け入れる窓口の整備と情報の収集、開示の強化策
- ・ 土地の災害履歴、改変履歴、利用履歴、地盤地質構成などの情報の積極的公開
- ・ 長町・利府断層による内陸直下型地震への対応の視点
- ・ 医療機関の防災力強化とネットワーク化
- ・ 財源の問題、行財政改革をどのように進めるのか
- ・ 「仙台市復興オリジナルバッジ」の製作

（その他）

- ・ 復興ビジョン作成過程の検証（住民ヒヤリングについての検討、行政サービスの抱える問題についての説明、震災関係の情報の分かりやすい提供、市の復興の目的についての説明）
- ・ 仙台市が若い世代に伝える歴史的遺産とは何か
- ・ 日本の国土形成の中での仙台市の位置づけは何か、他地域に対するバックアップ機能をどの程度担うべきか
- ・ 国際社会の中で仙台市が担う役割は何か

II ビジョンの変更に関する論点

- ・ 震災の規模、被害状況の甚大さに鑑み、計画期間を10年間に設定すべき
- ・ 可能な限り期限を明示、時間のスケールを意識した仕分け、短期・中期・長期などの設定
- ・ 「地元中小企業支援」だけでなく、「地域企業・地域産業支援」として取り組むべき
- ・ ゾーニング（土地利用規制・都市計画の見直し、クリマアトラス、地盤情報）
※クリマアトラス：気候解析図

Ⅲ ビジョンの深化等に関する論点

(計画全般)

- ・ 犠牲で得た多くの教訓を被災地発の財産に
- ・ 市民が主体となって復興のまちづくりをすすめていく方向性の強調
- ・ 男性と女性がともに復興に向けて取り組んでいく方向性の明示
- ・ 新次元とは何か? 「新しい視点からの都市政策」「減災」「都市防災・エネルギー利用の見直し」などの概念の明確化

(防災関係)

- ・ 被災企業の復旧に向けた緊急を要する課題(お金)への対応
- ・ 被災された人びとの哀しみの慰藉と復興を担う人びとの心の健康に向けたメンタルヘルス対策
- ・ 生活再建・自立支援などの支援の検証と見直し
- ・ 仮設住宅における地域包括ケアの推進(超高齢化社会を乗り切るテストケースとして)
- ・ 東部地域の防災・減災を考慮した新しい土地利用のあり方、農業の再生
- ・ 七北田川南側の東部地域の再構築
(環境に配慮した美しい田畑、安全・安心な食料生産基地、バイオマスエネルギー生産、見て喜びを感じることができる農村、フィールド系リクリエーション・スポーツ施設を完備した海岸公園、産官学共同による農地利用方策の構築、農業園芸センターの見直し、地域自立型エネルギー生産に対する支援 等)
- ・ 復興住宅の環境性能・高効率機器・自立性能、公共施設再整備、メガソーラー
- ・ 斜面住宅地(盛土、切盛境界)、河川周辺(軟弱地盤)への対応

(省エネルギー・環境)

- ・ 震災廃棄物・津波堆積物(土砂)などの有効利用に向けた積極的な方針の提示
- ・ 防災とエネルギー供給という震災後の「文明」的課題に仙台市はどう答えるのか
- ・ スマートコミュニティ(環境観測網復旧・充実、再生可能エネルギーの積極的導入、エネルギー源のネットワーク化、機器運転の最適制御)

(コミュニティ)

- ・ 市内のコミュニティの再建だけではなく、震災後東北地方に関心を寄せる国内外の人々との「つながり」を確かなものに
- ・ 日頃、地域参加の少なかった層の住民も巻き込んだ新しい地域コミュニティを創り出していく方法の検討

(経済)

- ・ 東北・仙台の元気を発信に向けた文化・観光施設の早期復旧

- ・ コンベンション・シティとしての仙台市の発展
- ・ 震災によって落ち込んだ観光業の復活（国際会議の積極的誘致等の施策）

（その他）

- ・ 特区構想をどう提案するか
- ・ 震災後の福祉、雇用の問題への対応
- ・ 被災地となった他の地域と連携・協力した復興の実現